SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

中学校社会科世界地誌学習の授業実践力向上に関する教科開発学的研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2017-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長倉, 守 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010189

（課程博士・様式11）

最終試験の結果の要旨及び審査委員　報告書

学籍番号	30240006	氏　名	長倉　守
論　文　題　目	中学校社会科世界地誌学習の授業実践力向上に関する教科開発学的研究		
論文審査結果	合		
最終試験結果	合		
最終試験審査委員	審査委員長　西宮秀紀 委　員　伊藤直樹 委　員　村越真 委　員　村山功 委　員　新保達 委　員		

（最終試験の結果の要旨、1,000字程度）

最終試験は、30分の研究内容の発表と、その後の約1時間の質疑応答によって行われた。

研究内容の発表では、論文の概要をその構成（第1章から第5章）の順にしたがって説明が行われた。第1章での世界地誌学習に関する教科学的検討、及び第2章での省察による授業実践力向上に関する教育環境学的検討から、第3章では、単元を越えた複数の授業時間を対象にし、教科の視点を援用した外部支援者との協働省察によって、①実践的知識の形成や変容、②授業実践の変容、③教師自身の変容の自覚化について可視化することができた。第4章では、経験豊かで授業実践力が高いと判断される教師の語りをもとに、世界地誌学習における授業実践に関する教師の経験や実践的知識に関する理論仮説を提示した。さらに第5章では、S県の社会科教師に対して質問紙調査を行うことから、それぞれの要素について量的に明らかにした。全体を通して、研究の枠組みや分析方法、地理教育学・地理学〔教科学〕と教師教育学〔教育環境学〕の架橋、理論と実践の往還について分かりやすく説明した発表であったと評価できる。

続いて質疑応答に移り、審査委員からは次のような質問がなされた。

・世界地誌を捉える上で、「地域スケール」の観点をどう考えるか。また分析結果を踏まえ、世界地誌学習の授業実践で重視すべきことは何か。

・課題にある、「すぐに使える」ためにはどういう方途があるのか。

・同僚との協働省察を外から研究するのではなく、外部支援者としてペアで協働省察する際の知見としてはどんなものがあるか。

・第4章の質的分析で得た知見を第3章に援用すると何か言えることがあるか。

・A教諭はどう省察し、どう変容したのか、A教諭に対するアクションと変容の具体は何か、および本研究においてインタビューイーは、どのように省察をしたのか。

・重回帰分析について、研究授業は影響がなく、教科リーダーや郊外研修が影響する結果をどう解釈するか、さらに論文全体を通して、省察をどうとらえているか。

・ミドルリーダー育成、研究内容の加工による現場への提示、教科内容に係る視点からの検討の重要性についてどのように考えるか。

・具体的方途の具現等、結論をより明確に主張したほうがよかったのではないか。

いずれの質問に対しても、的確に回答することができており、自身の研究内容について深い理解があることが確認できた。

以上の点、および、別紙の「審査概評」を合わせて、最終試験の結果は「合格」と判定した。

審査委員長　西宮秀紀　印